

泔器種類

〔兵範記〕仁安三年十二月十日丁酉早旦著行事所大嘗會威儀御物并副御調度内覽○中

大嘗會悠紀所

注進 御物目錄事○中

螺鈿疊繪二階一脚在黃地唐錦面○中略

銀泔坏一口在螺鈿疊繪臺

面赤地唐錦并唐組等○中略

金銅物○中 泔坏二具○中

大嘗會悠紀所

注進 副御調事○中

金銅泔坏一口在臺赤地面唐錦面

泔器用法

〔雅亮裝束抄二〕みづらをゆふこと

まづ玄たむすびをして、かうがいのさきをゆするつきの水にぬらして、むすびめをぬらして、まむすびにすべし、いとをのべしれうなり○中 ゆするつきの水は、いとむすびめぬらさんれうなり、

〔侍中群要四〕供御泔坏水事

先置臺取坏出、到御厨子所、入水了供之、其儀左手取水右手取蓋供之、居時取蓋置臺下云々、或取臺供之、

〔雅亮裝束抄一〕もやひさしのてうどたつる事

もやひさしに、ひろむしろを玄きみて、ひさしのなげしのうへに、やまとむしろをはしらにきりまはして、なげしにむしろのみ、をはしらにひとしくあて、釘してうちつく○中、そのた、みのにしのかしらに、二階をたつ、おもてにしきをおしたり、うらにまはして、くみをしたり、上のこしのおくに、火とり、白かねのこはし、かむばちあり、はしにゆするつきををくだいあり、しきのおもてをしたり、ゆするつきふたあり、みなかねなり、

〔雅亮裝束抄二〕わらは殿上のこと

ゆするつきに水いれて、やないばこにをきてぐすべし、

〔類聚雜要抄二〕口傳